

第2. 社団法人青森県産業振興協会の概要

1. 法人の概況

(1) 設立年月日：昭和58年10月1日

(2) 定款に定める目的

この法人は、地域の産業をはじめ、観光、物産等の総合的な紹介等をし、もって本県産業の振興に寄与することを目的とする。

(3) 定款に定める事業内容

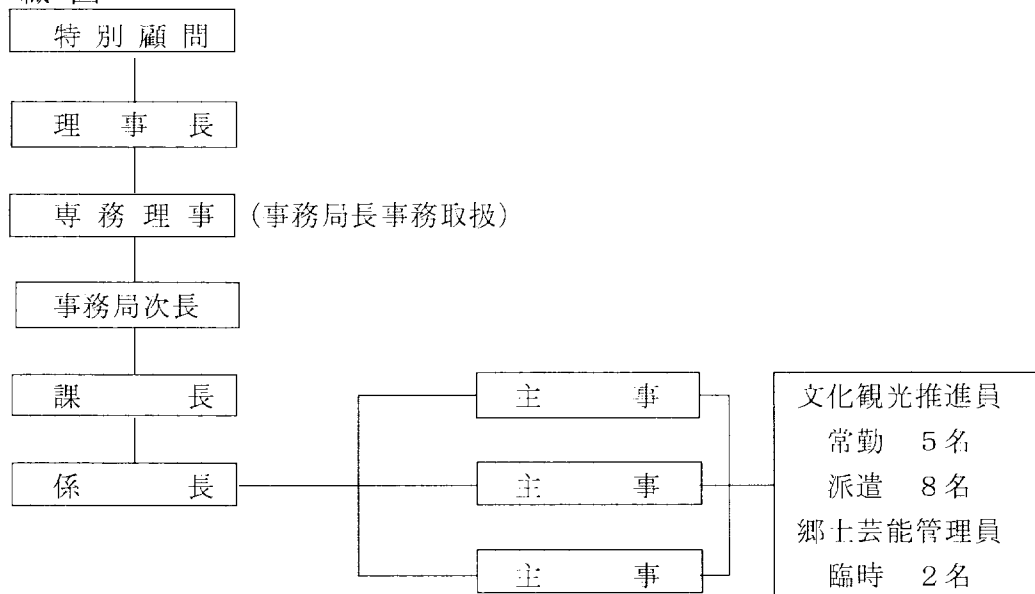
- ①観光物産館の建設及び管理運営事業
- ②産業の紹介及び宣伝事業
- ③観光と物産の紹介及び宣伝事業
- ④郷土芸能等の紹介及び宣伝事業
- ⑤産業振興のための調査及び研究事業
- ⑥産業及び文化の交流事業
- ⑦その他目的を達成するために必要な事業

(4) 所轄官庁に関する事項：文化観光推進課

(5) 主たる事務所及び組織の状況（平成14年7月1日現在）

①主たる事務所 青森市安方一丁目1番40号

②組織図



(6) 役員に関する事項（平成14年4月1日現在）

役員	勤務形態	人数	前職・関係団体	報酬・退職金の有無
特別顧問	非常勤	1名	県知事	報酬無・退職金無
理事長		1名	県観光連盟理事長	報酬無・退職金無
専務理事	常勤	1名	特別会員	報酬有・退職金有
理事	(全員) 非常勤	18名	県副知事2名 県商工観光労働部長 市長3名 県町村会会長 県漁業協同組合連合会代表理事会長 全国農協連合会県本部運営委員会会長 県商工会議所連合会会長 県商工会連合会会長 県中小企業団体中央会会長 県バス協会会長 県物産協会副会長 県林業協会会長 東北電力㈱青森支店長 新むつ小川原㈱取締役青森本部長 特別会員	(全員) 報酬無・退職金無
監事	非常勤	1名	県町村会監事	報酬無・退職金無

(7) 職員に関する事項（平成14年4月1日現在）

区分	男女別内訳			前年比 増 減	平均年齢（歳）		
	男	女	計		男	女	計
事務・庶務担当	5人	7人	12人	-2人	35.2	26.9	30.3

※ 他に文化観光推進員として派遣社員（女）7名
郷土芸能管理員として臨時職員（女）2名

2. 事業の状況

(1) 青森県の文化・観光・物産の情報発信の場として、館内において観光案内センター、県内物産の販売店、青森県の観光スポットを一覧するパノラマ館、青森市街・陸奥湾・岩木山・八甲田山等を一望できる展望台等を運営し、事業活動を行っている。又、一階イベントホールにおいて、「津軽三味線」等郷土芸能のPR、県産ホタテや、なまこの展示即売会・あおもり特産品フェア、県内地域別物産展等の紹介事業、各種イベントを年間百数十回行っている。

(2) 会議に関する事項

定款にしたがい社員総会が年1回開催されている。理事会については、議事録がない。この点については監査の指摘事項としている。アスパムは昨年15周年を経過したが客の逡減傾向が続いているため、平成14年度から理事長・専務理事の他、県や旅行会社等から8名の委員が参加し「アスパム活性化検討委員会」を設置し、年3回会議が開催されることになっている。

(3) 収支及び正味財産増減の状況財産の状態の推移

① 収支計算書

●一般会計

(単位：千円)

科目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
基本財産運用収入	94	108	67	53	33
事業収入 a)	312,501	333,061	317,246	289,875	277,991
補助金収入 b)	1,341,424	5,000	5,000	5,000	5,000
委託料収入 c)	7,902	7,903	7,903	7,903	13,691
雑収入	2,598	4,299	4,130	1,642	1,265
繰入金収入(特別会計より)	0	50,000	0	0	0
借入金収入 d)	85,000	0	0	0	0
当期収入合計(A)	1,749,521	400,372	334,347	304,473	297,981
前期繰越収支差額	10,434	21,093	19,846	35,597	15,896
収入合計(B)	1,759,956	421,466	354,193	340,071	313,878
管理費					
人件費 e)	77,476	78,173	68,837	69,921	e) 54,886
広告宣伝費	11,427	15,334	17,604	11,488	11,262
消耗什器備品費	19,064	21,257	18,709	18,916	g) 29,003
委託料 e)	89,292	97,303	91,983	101,087	e) 110,553
その他	113,807	100,963	89,676	84,407	f) 82,542
固定資産取得支出 b)	274,277	3,586	1,785	8,352	710
借入金等返済支出 b)	1,138,517	d) 25,000	d) 30,000	d) 30,000	0
特定積立金支出	15,000	60,000	0	0	0
支出合計(C)	1,738,862	401,619	318,596	324,174	288,959
当期収支差額(A-C)	10,658	△1,246	15,750	△19,701	9,021
次期繰越収支差額(B-C)	21,093	19,846	35,597	15,896	24,918

a) 事業収入の内訳

(単位：千円)

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
観覧料収入	56,164	51,718	41,606	36,980	34,918
賃貸料収入	178,098	200,314	187,322	173,258	171,492
共益費収入	50,418	53,652	62,029	53,076	50,882
広告収入	7,286	6,363	6,048	6,048	5,472
その他収入	20,532	21,012	20,239	20,511	15,224
合計	312,501	333,061	317,246	289,875	277,991

入館料金は5年間一定であり、観覧料収入の減少は有料入館者数の長期にわたる通減傾向による。(P138参照)

賃貸料収入は、アスパムのテナント貸収入と会議室の貸付収入からなる。テナント料金は固定家賃と歩合家賃からなるが、物販テナントが3件、飲食テナントが4件、その他貸事務所等が11件で、合計18件が入居している。13年度の賃借料収入のうち約105百万円がテナント家賃収入、約67百万円が会議室収入である。

賃貸料収入及び共益費収入のうち11年から13年度にかけての減少は、(財)青森アジア冬季競技大会組織委員会が、県庁舎新築に伴い転居したこと、9階飲食店スカイプラザが撤退したこと、一部のテナントにつき歩合家賃のレート引下げや売上減少による家賃の減少等があったことが原因である。

広告料収入は、館内壁面看板13社への賃貸分である。

その他収入は(社)青森県バス協会よりのバスターミナル管理維持費負担金(毎年210万円)や2階エネルギー館の広報活動強化資金として電力関係会社の協力金(9~12各年度1,260万円)、アスパムテナント会(しんこう会、毎年300万円)の負担金収入などである。13年度減少額は、エネルギー館広報活動資金の縮小(777万円)による。

b) アスパムの県への移管(公設準民営化)

昭和61年4月、振興協会が「アスパム」を建設し運営してきたが、有料入館者数の落込みや(利用者数の推移P138参照)、建設時の長期借入金で経営を圧迫する等、アスパムの運営に大きな支障が生じてきた。振興協会は、県の支援を受けながら経営改善に取り組んできたがなかなか軌道に乗らず、平成7年に県が設置した「アスパム活性化対策検討委員会」の公設準民営化の提言によりアスパムを県に移管することとなった。平成9年度に至り、県は振興協会に対し補助金1,336百万円を交付し、振興協会は下記の債務等を返済すると共に同年7月1日に建物を県に寄付、同時に県より無償貸付を受け、アスパムの管理運営をすることになった。この無償貸付については、法96条1項6号の規定により県議会の議決を経て使用貸借契約を締結している。尚、この結果、テナントからの賃貸料、観覧料等は従来どおり振興協会に引き継がれることとなった。

収 入		支 出	
県補助金収入	1,336百万円	アスパム建設借入金元本返済	730百万円
		同上金利分借入金返済	169
		テナント入居保証金返還	239
		借入金等返済支出	1,138
		固定資産取得支出	
		1・2階改装費用（県負担）	198
合計	1,336百万円	合計	1,336百万円

1・2階改装費用は県産品の販売、展示が主であり、改装費用は県が負担したが、3・4階分は振興協会の事業収入となるため、85百万円を借入れ、76百万円の改装費用（固定資産取得支出）を負担した。1・2階分を含め、固定資産取得支出は274百万円となっている。

c) 受託収入

受託業務は、青森県観光連盟より受託している1階「観光総合案内所」管理業務である。13年度増加は、県より津軽三味線アンケート調査業務約220万円、2階パノラマ館の三内丸山遺跡の映像挿入展示業務約360万円があったことによるものである。

d) 85百万円の借入金の返済額である。

e) 人件費・委託料

人件費削減のため、平成9年度から13年度にかけ常勤職員が6人が退社し（1人年俸300万円程度）、人材派遣会社より5名のスタッフ（1人年俸200万円程度）を受け入れた。その結果、人件費が減少し委託料が増加している。13年度の人件費は8名の常勤職員のものであるが、1名の退職金1,258千円を含む。

委託料の主なものは、清掃業務31百万円、設備保守業務約27百万円、警備駐車場業務約33百万円、人材派遣会社約11百万などである。

f) 主な内容は、電気料約44百万円、水道料約8百万円である。

g) 貸借対照表の未払金の増加理由に同じである。

● 特別会計(駐車場・物品販売特別会計)

(単位：千円)

科目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
事業収入 h)	48,192	53,457	52,424	51,071	50,313
雑収入	281	322	72	34	4
特定預金取崩収入	0	0	0	0	4,068
当期収入合計(A)	48,473	53,779	52,496	51,106	54,385
前期繰越収支差額	3,121	4,731	8,622	9,429	12,723
収入合計(B)	51,594	58,511	61,119	60,535	67,108
管理費 人件費	20,817	20,932	23,796	21,649	28,729
消耗什器備品費	3,123	6,067	4,135	4,826	5,031
委託料	18,175	18,938	19,643	17,346	19,097
その他	4,745	3,950	4,113	3,990	3,744
特定積立金支出	0	0	0	0	2,000
当期支出合計(C)	46,862	49,889	51,689	47,812	58,603
当期収支差額(A-C)	1,610	3,890	807	3,293	△4,217
次期繰越収支差額(B-C)	4,731	8,622	9,429	12,723	8,505

h) 事業収入の内訳

(単位：千円)

	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
駐車場収入	44,811	49,045	48,207	48,267	47,517
物品販売収入	3,381	4,412	4,217	2,804	2,796
合計	48,192	53,457	52,424	51,071	50,313

振興協会は、県より駐車場敷地を無償で借受けている。駐車場は乗用車150台を収容し、駐車料金は最初の1時間は200円、以後30分毎に100円となっている。駐車場収入については、おおむね安定的に推移している。

1階及び13階でテレホンカード、お便りセット、ビデオなどオリジナル商品の販売を行っているが、物品販売は、平成11年度から減少傾向にある。販売収入の増加に結びつけるため、14年度においてアスパムアップルパイなどオリジナル商品を開発し、販売している。

この特別会計は、税務上の課税対象となる事業として区分経理され、税務申告がなされている。しかし、経費の配賦基準の問題(P111)、一般会計の収益事業課税の問題(P112)等、今後検討すべき課題がある。

● 特別会計(10億円基金)

(単位：千円)

科目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
県借入金収入 i)	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
銀行借入金収入 i)	1,000,000	0	0	0	0
特定預金取崩収入 i)	0	1,000,000	0	0	0
運用収入	23,816	68,701	3,391	2,738	1,698
当期収入合計 (A)	2,023,816	2,068,701	1,003,391	1,002,738	1,001,698
前期繰越収支差額	307	1,119	10,378	8,730	8,318
収入合計 (B)	2,024,123	2,069,821	1,013,770	1,011,468	1,010,017
広告宣伝・イベントによる誘客対策	10,929	5,540	5,040	3,150	1,695
館内整備事業	12,075	3,902	0	0	8,322
県借入金返済支出 i)	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
銀行借入金返済支出 i)	0	1,000,000	0	0	0
繰入金支出 (一般会計へ)	0	50,000	0	0	0
支出合計 (C)	2,023,004	2,059,442	1,005,040	1,003,150	1,010,017
当期収支差額 (A - C)	812	9,258	△1,648	△411	△8,318
次期繰越収支差額 (B - C)	1,119	10,378	8,730	8,318	0

i) 名称は10億円基金特別会計となっているが、平成3年度より県の無償貸付を受け利息収入を法人の運営資金にあててきた。平成9年度に銀行借入により、一端、県借入20億円を返済し10億円の預金も解約したため利息収入が増加した。

10年度以後、毎年10億円を年度内に貸付、預金として運用、年度末に返済という手続を繰り返してきたが、低金利による運用益の低減並びに財務内容のある程度の安定が図られたこと等により平成13年度において基金運用は終了することとなった。

② 正味財産増減計算書（法人合計）

（単位：千円）

科目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
（増加の部）					
資産増加額					
当期収支差額	13,081	11,902	14,910	0	0
展示物等建設額	b) 251,727	3,586	357	2,200	0
什器備品購入額	22,549	0	1,428	6,152	710
退職給与引当預金増加額	3,113	1,364	1,209	2,487	891
特定積立金増加額	15,000	60,000	0	0	2,000
負債減少額					
銀行借入金返済額（一般会計）	b) 899,000	d) 25,000	d) 30,000	d) 30,000	0
銀行借入金返済額（特別会計）i)		1,000,000	0	0	0
県借入金返済額（特別会計）i)	2,000,000	1,000,000	0	0	0
入居保証預り金返済額	b) 239,517	0	0	9,777	0
増加額合計（A）	3,443,989	2,101,853	47,904	50,616	3,601
（減少の部）					
資産減少額 当期収支差額	0	0	0	16,819	3,515
i) 特定預金取崩額（特別会計）	0	1,000,000	0	0	0
特定積立金取崩額	0	0	0	0	4,068
（※）建物等減少額 b)	4,802,133	0	0	0	0
負債増加額 銀行借入金（一般会計）	d) 85,000	0	0	0	0
銀行借入金（特別会計）i)	1,000,000	0	0	0	0
県借入金（特別会計） i)	1,000,000	1,000,000	0	0	0
減少額合計（B）	6,887,134	2,000,000	0	16,819	7,583
当期正味財産増加額（A－B）	△3,443,144	101,853	47,904	33,797	△3,981
前期繰越正味財産額	4,150,148	707,004	808,858	856,762	890,560
期末正味財産額	707,004	808,858	856,762	890,560	886,578

（※）建物等減少額 建物・構築物減少額 4,540,429千円
 展示物除去・備品減少額 261,704千円

③ 貸借対照表の推移（法人合計）

（単位：千円）

科目	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
現金	840	848	823	791	929
預金	48,297	51,761	70,171	51,606	57,401
特定積立預金 j)	40,000	100,000	100,000	100,000	102,000
未収金	6,297	10,410	5,338	9,010	k) 12,820
前払金・立替金	2,487	2,280	2,032	2,013	1,980
流動資産合計	97,924	165,301	178,367	163,421	175,131
基本財産定期預金	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500
展示物	601,564	601,564	601,921	604,121	604,121
什器備品	159,103	162,690	164,119	170,271	170,981
投資有価証券	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
退職給与引当預金	15,937	17,302	18,511	20,998	17,821
特定預金 i)	1,000,000	0	0	0	0
固定資産合計	1,797,605	802,557	805,552	816,391	813,925
資産合計	1,895,530	967,858	983,919	979,813	989,057
未払金	24,384	20,803	20,417	21,617	l) 35,019
前受金	5,512	5,539	4,147	4,147	3,944
預り金・仮受金	1,081	110	74	718	744
流動負債合計	30,978	26,453	24,639	26,482	39,708
銀行借入金（一般会計）	d) 85,000	d) 60,000	d) 30,000	0	0
銀行借入金（特別会計） i)	1,000,000	0	0	0	0
入居保証預り金	72,547	72,547	72,547	72,547	m) 62,770
固定負債合計	1,157,547	132,547	102,547	72,547	62,770
負債合計	1,188,525	159,000	127,186	99,029	102,478
正味財産	707,004	808,858	856,732	880,783	886,578
負債及び正味財産合計	1,895,530	976,858	983,919	979,813	989,057

j) 特定積立金は、平成8年度に25,000千円、平成9年度に15,000千円、平成10年度に60,000千円それぞれ積立てたものである。積立ての原資はいずれも単年度及び繰越の収支差額である。

k) 平成13年度における未収金の増加は、パノラマ館放映業務委託に関する県からの未収金3,570千円によるものである。

l) 平成13年度における未払金の増加は、会議室音響改修工事約1,442千円、5階床、壁、天井改修工事約2,007千円、パノラマ映画制作費委託料約3,675千円（以上、備品消耗品費）の他、退職金約5,236千円の発生によるものである。

m) 平成9年度アスパムの県への移管に伴い、殆どの入居保証金を返還したが、4社分が預かりとなっている。

第3. 管理施設：青森県観光物産館「アスパム」の概要

(1) 建設の趣旨

青森県の産業、観光・物産並びに郷土芸能等を総合的に紹介し、県内外の人々に本県を理解してもらう施設として、また、21世紀に向けて本県が大きく飛躍するための産業振興の拠点として建設された。建物の形状が二等辺三角形・15階建てであり青森市内の中心部に位置しているため、一際目立つ青森市のランドマーク的存在となっている。

(2) 施設の構造

①設計	設計期間S57.7月～S59.3月
②工期	S59.7月～S61.3月
③敷地面積	14,996㎡
④建築面積	4,034㎡
⑤延面積	14,303㎡
⑥構造	鉄骨造および鉄筋鉄骨コンクリート造
⑦階数	地上15階、塔屋3階
⑧高さ	76m
⑨駐車場	一般車両150台、大型バス12台
⑩バスターミナル	JR、青森市営、十和田観光電鉄、下北交通（1日約60便発着）

(3) 開館までの経緯

年 月 日	事 項
S 54. 5. 17	観光物産館建設合同委員会設置（構想検討）
S 57. 10. 24	観光物産館建設準備委員会に改組（基本計画）
S 58. 10. 1	社団法人青森県産業振興協会設立（実施設計）
S 59 7 5	建設工事本契約締結
7. 10	起工式（工事着工）
S 60. 5. 27	上棟式
S 61. 4. 23	竣工式
4. 24	オープン

(4) 施設の名称 青森県観光物産館アスパム

愛称の『アスパム』は、開館に先立ち県内外に広く一般公募し、1,307点の中から採用された。青森県観光物産館を英単語で直訳し、Aomori Sightseeing（観光）Products（物産）Mansion（館）の頭文字をとって『アスパム』とした。

(5) 館内の概要

階	展示施設等
1	青森県観光総合案内所、イベントホール（約100坪）、物産プラザ（県内物産品の展示販売）、情報の樹（各種情報の閲覧）、観光写真店、バス待合所、銀行 ATM コーナー、軽食コーナー
2	パノラマ館（県内の紹介）、エネルギー館・キャブテンジオー（子供向け参加体験型展示施設）、市町村・地場産品コーナー、民芸品コーナー、手作り体験コーナー、ふれあいショップ
3~7	貸会議室
8	青森公共職業安定所、青森県情報政策課
9	青森公共職業安定所
10	郷土料理店
11	洋食レストラン / 厨房
12	機械室
13	展望台
14	回転展望レストラン

(6) 施設の利用状況

(人)

	総入館者	有料入館者 A
61年度(開館)	925,100	551,604
62年度	862,800	345,417
63年度(注)	1,968,300	1,620,964
元年度	501,100	200,278
2年度	954,600	194,069
3年度	1,037,000	207,151
4年度	1,137,000	213,354
5年度	1,098,100	200,091
6年度	982,500	178,484
7年度	883,400	163,034
8年度	963,600	170,063
9年度	757,800	130,047
10年度	894,400	116,314
11年度	751,900	97,089
12年度	736,900	86,423
13年度	765,600	82,048
合計	15,220,100	4,556,430

(注) 青函博覧会が開催されたことによる増加である。

(人)

(百万円)

有料入館者目標 B	差異 A - B	テナント売上
160,000	-29,953	1,299
152,000	-35,686	1,239
111,000	-13,911	1,129
100,000	-13,577	1,029
90,000	-7,952	981

第4. 所管課：県商工観光労働部「文化観光推進課」の概要

1. 文化観光推進課の概要

県商工観光労働部には6課3室があり、「文化観光推進課」はその1つである。課内には観光班、企画班、国際観光班、施設班、イベント・コンベンション推進室がある。観光班が総務的事務を行っており、(社)青森県産業振興協会に関する事務を担当している。近年は総会に出席するほか、特に事案があれば対応するが、振興協会に関して量的・時間的に相当量の事務はないということである。

2. 振興協会との関係

(1) 基本金の出資・人事関係

県は、設立時に出資金1,950万円のうち500万円(25.64%)を出資しているが、県より職員は派遣していない。知事が特別顧問となっている他、理事として副知事(2名：H14.4.1現在)、所管課を統括する商工観光労働部長が就任している。

(2) 振興協会への援助等

平成9年度において、振興協会は県の補助金により借入金を返還し、アスパムの建物、構築物を県に移管した後、無償貸与している(P131b参照)。その他、収支計算書(一般)記載の業務を委託している(P132c参照)他、駐車場用地も無償貸与している。

3. 財団法人青森県企業公社(浅虫水族館管理運営事業)との統合

県の公社等統廃合計画の策定により、振興協会と(財)青森県企業公社とが平成15年4月を目途に統合されることとなった。アスパムと浅虫水族館が一体となった情報発信が可能となり、より効率的な宣伝・紹介等を行うことにより、両施設の入館者の増大や経費の削減が期待されている。